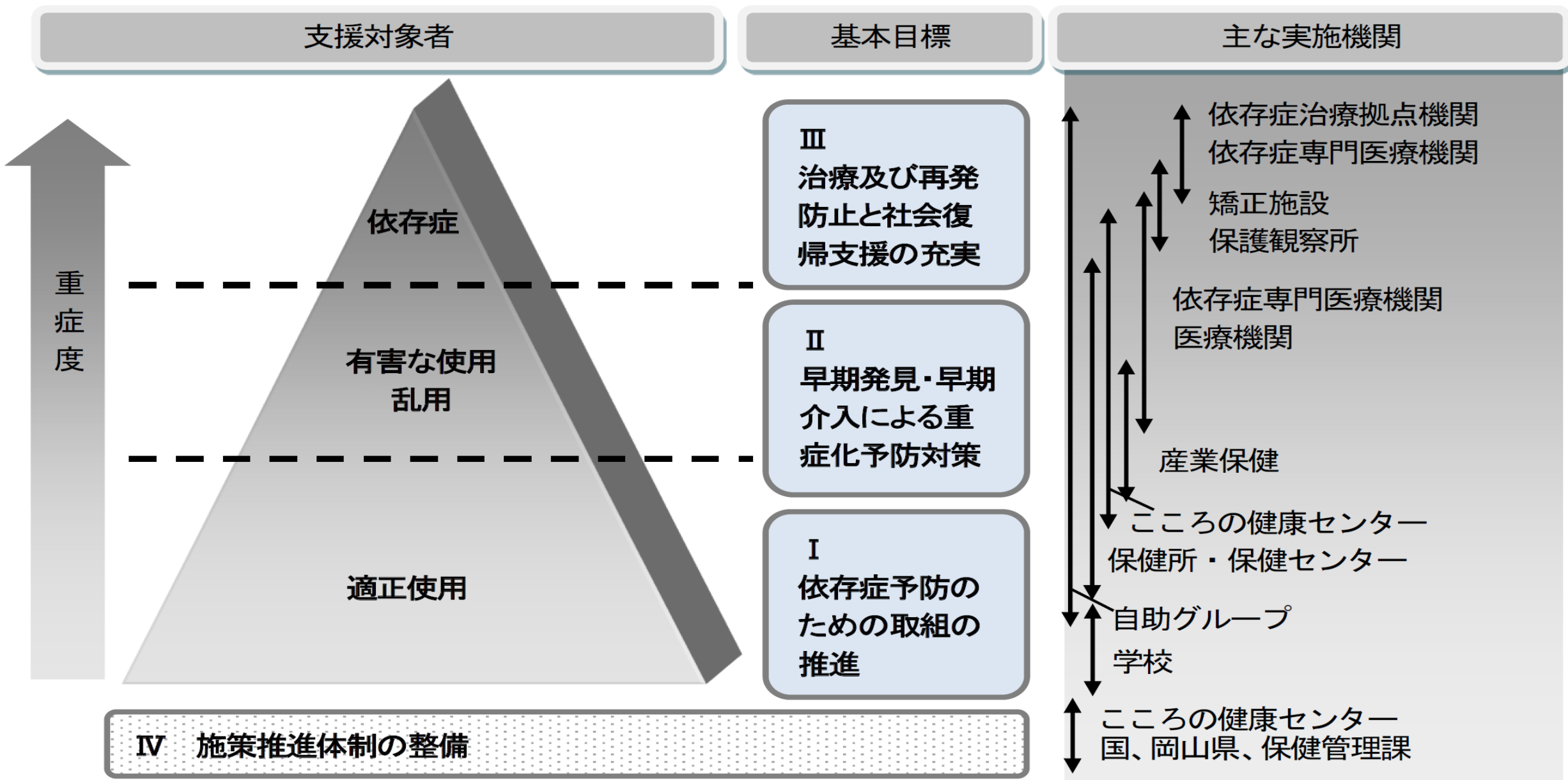
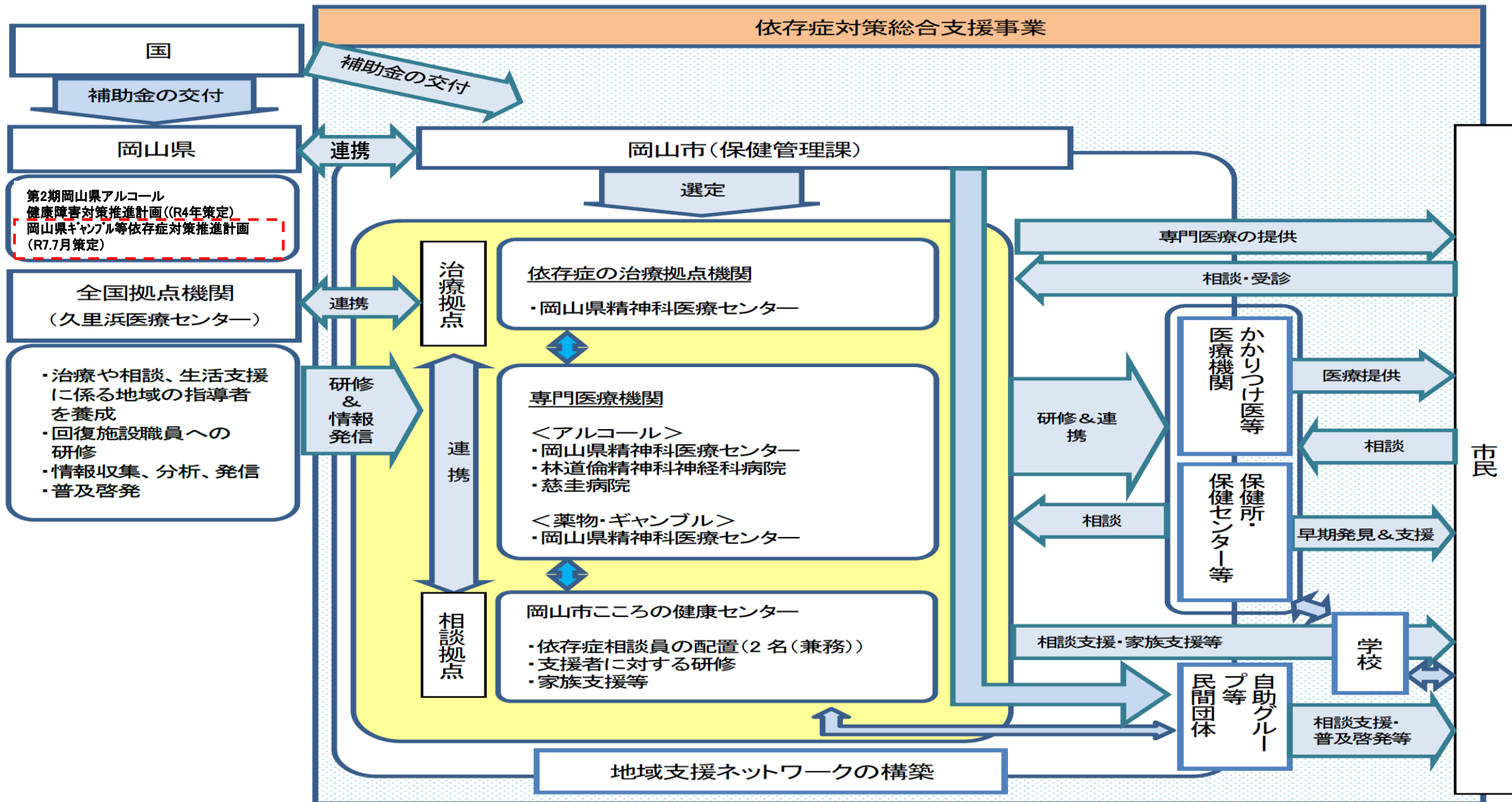


岡山市における依存症対策関連事業



出典：厚生労働省「みんなのメンタルヘルス」より改変

岡山市における依存症対策の全体像



こころの健康センターにおける実施事業の推移

H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
【AL・薬・ギ等】岡山市こころの健康センターにおける依存症専門相談																
普及啓発・情報提供																
岡山市依存嗜癖関連問題審議会																
おいしくお酒を飲むための教室																
【AL】アルコール依存症支援者専門研修																
【AL】岡山アルコール依存症早期ネットワーク																
【AL】事例に学び事例でつながるアルコール専門研修																
														【AL】DPD		
										【薬】薬物依存症基礎研修						
							【薬】		薬物依存症家族教室							
														【薬】VBP		
											【ギ】ギャンブル依存回復支援プログラム					
													【ギ】ギャンブル依存症基礎研修			

〔標記の説明〕

【AL】：アルコール依存症関連事業

【薬】：薬物依存症関連事業

【ギ】：ギャンブル依存症関連事業

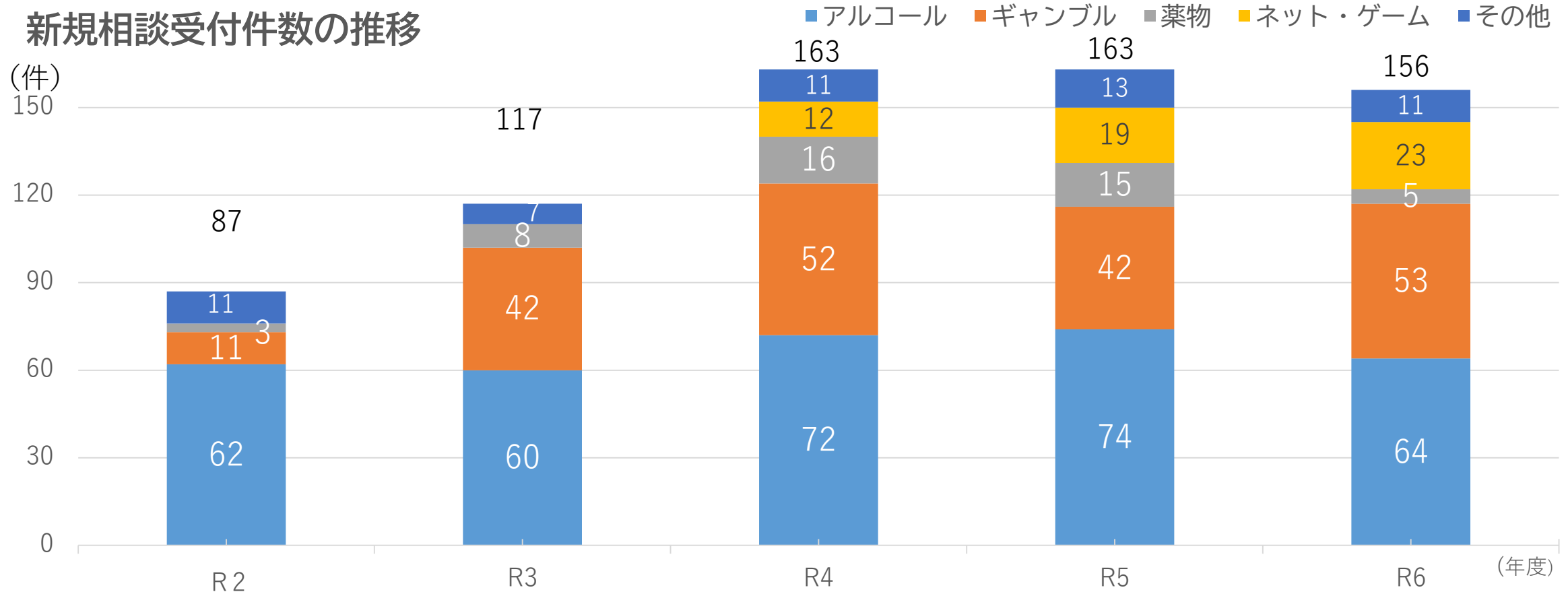
DPD (D to P with D)：オンラインによる専門医派遣

VBP (Voice Bridges Project)：保護観察対象となった薬物使用者に対する3年間追跡調査

こころの健康センター新規相談受付件数の推移

- ・ R6年の相談受付件数は、R5年度に比べアルコールが10人減少、ギャンブルが11人増加し、アルコールとギャンブルの差がなくなりつつある。
薬物は減少傾向、ネット・ゲームは増加傾向にある。
- ・ R7年2月から岡山県精神科医療センターの紹介ケースも受け入れている。
- ・ 主訴が医療機関の問い合わせに関するものでも、他機関の紹介だけに留まらず、個別相談へつなげるようにしている。

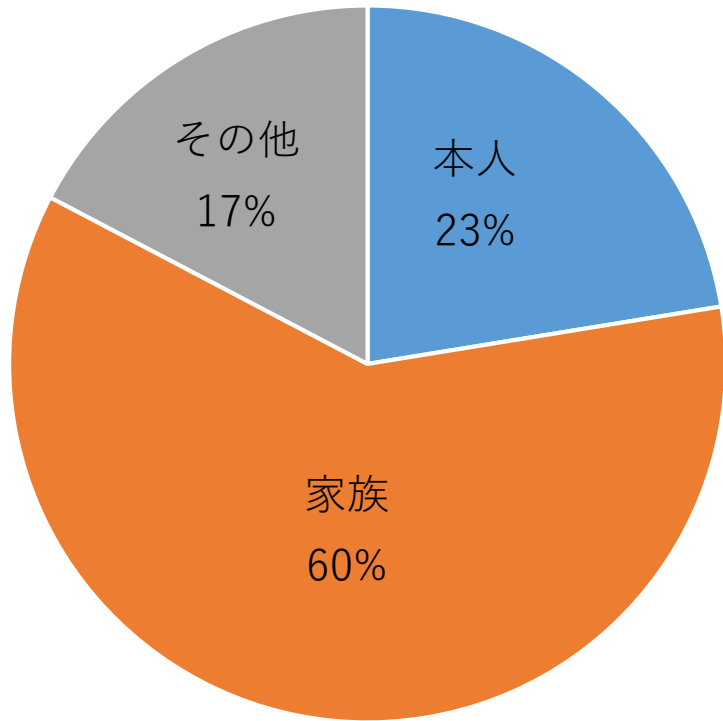
新規相談受付件数の推移



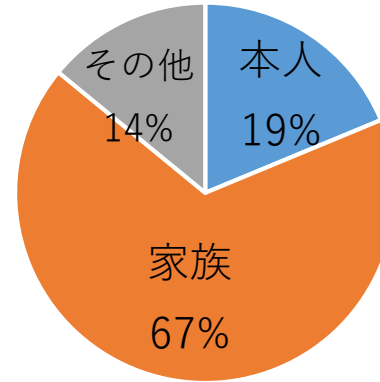
※ネット・ゲームはR4から新たに計上(R3まではその他に計上)

- ・ 依存症全体では約6割が家族からの相談となっている。
- ・ アルコール、ネット・ゲームは家族相談の割合が高い。
- ・ ギャンブルは、本人相談の割合が高い。
- ・ 薬物は、その他(保護観察所等)の割合が高い。

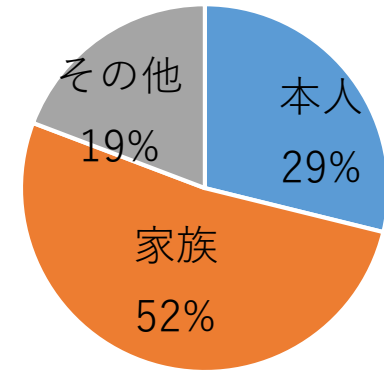
依存症全体 (n = 156)



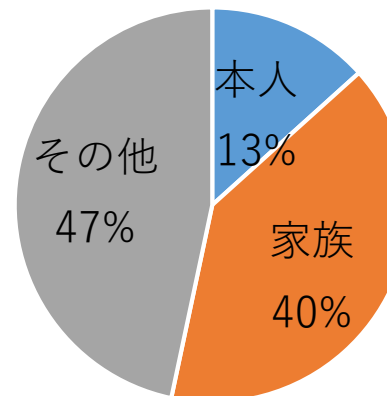
アルコール (n = 64)



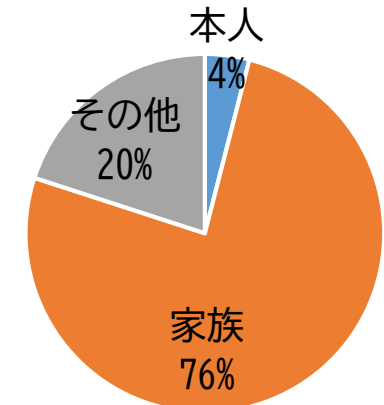
ギャンブル (n = 53)



薬物 (n = 5)



ネット・ゲーム (n = 19)



- ・相談対象者の年代は、大学生・成人等が約4割を占めている。
- ・相談内容は、日常生活に支障が生じている状況の相談が多い。
- ・相談主訴はネット・ゲーム相談であっても、相談内容は幅広く、思春期相談担当者と依存症相談担当者が連携し、継続的な家族相談、本人相談を行うほか、関係機関の紹介等の対応を行っている。

相談対象者の年代内訳

(R6年度： n=23人)

年代	人数	割合
就学未満	0人	0%
小学生	3人	13%
中学生	3人	13%
高校生	2人	9%
大学生・成人等	9人	39%
不明	6人	26%

【相談内容】

※日常生活に支障が生じている

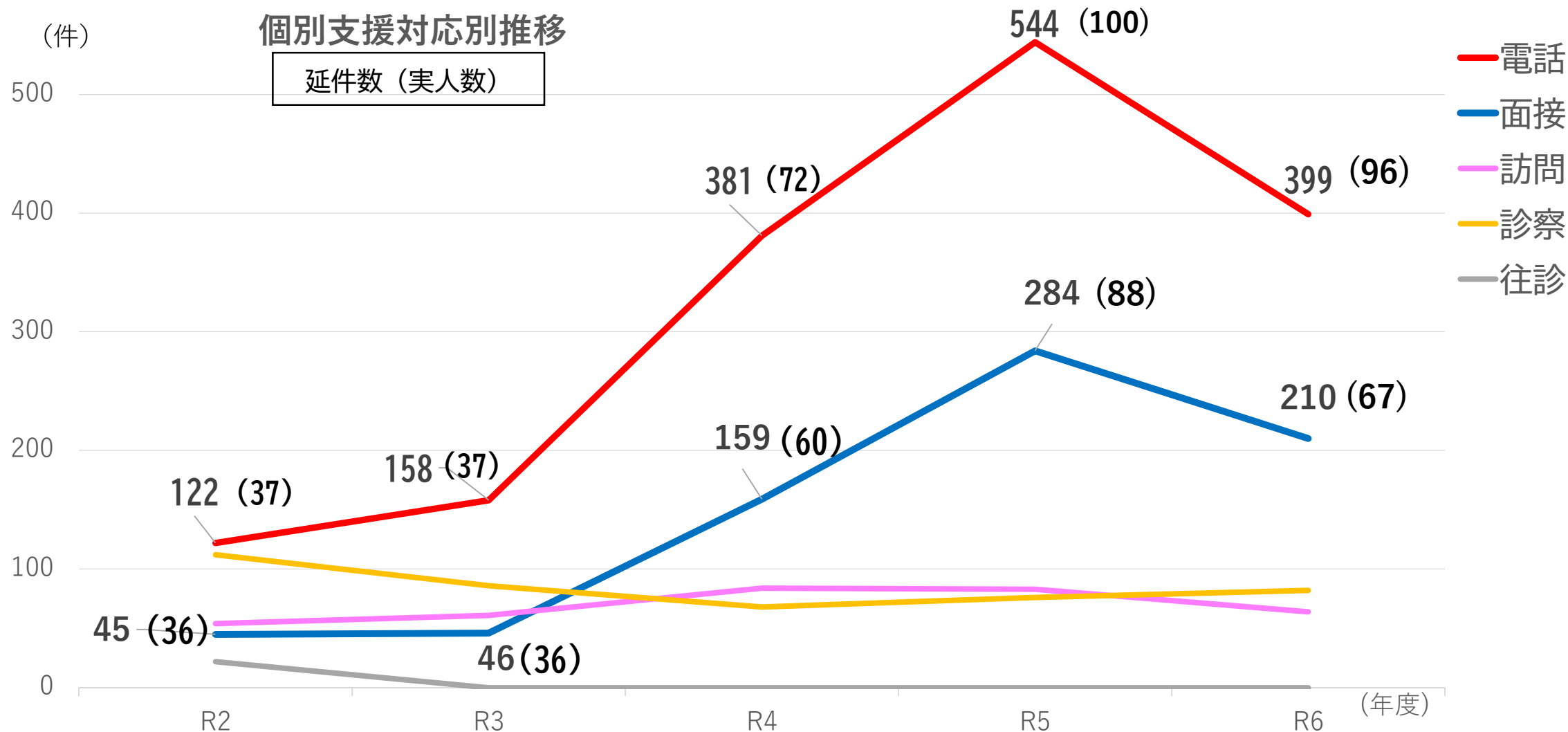
- ・不登校になっている
- ・出席日数、単位が不足し留年している
- ・生活が昼夜逆転している
- ・課金により多額の借金をする
- ・朝起きてから寝るまでスマホを離さない
- ・注意するとパニック、暴力が出る

【対応】

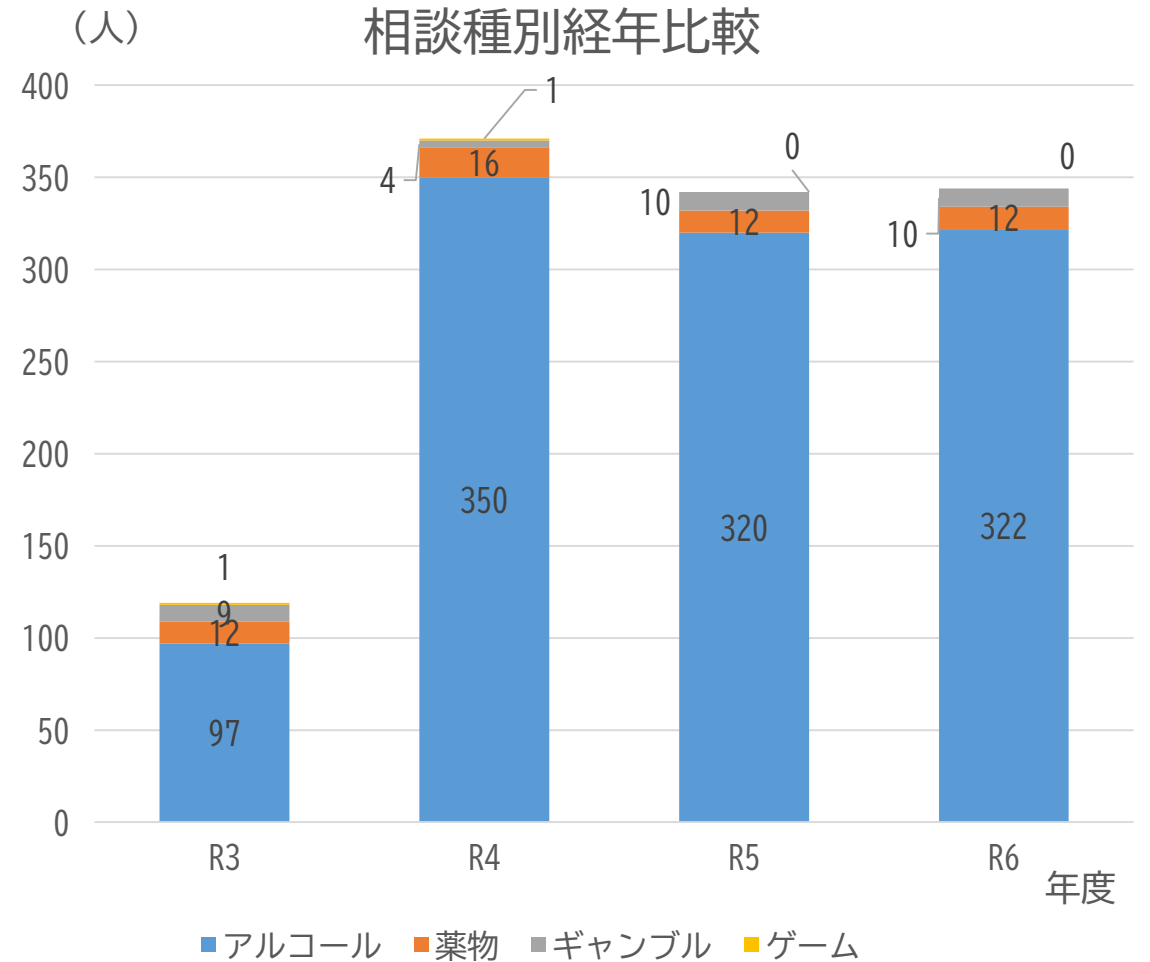
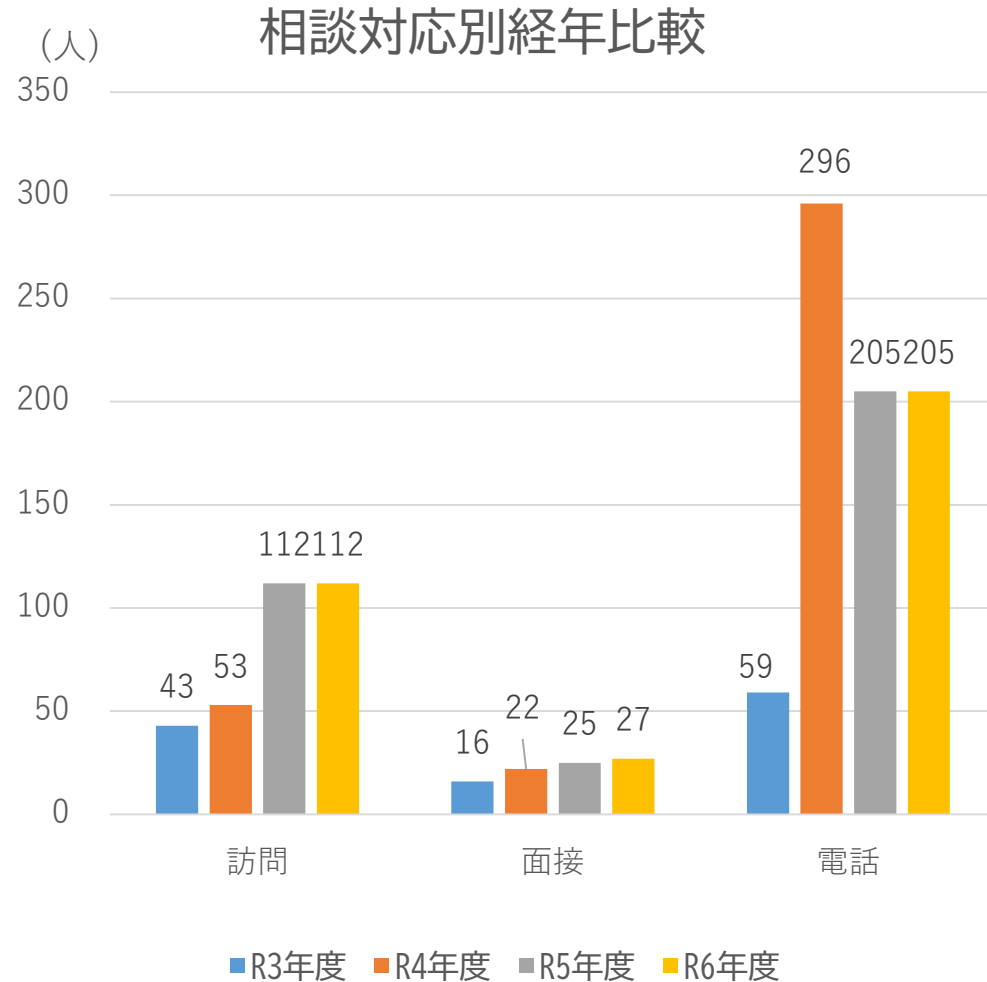
- ・継続的な家族相談(思春期相談・依存症相談)
- ・継続的な本人相談(思春期相談・依存症相談)
- ・専門医療機関の紹介
- ・消費生活センターの紹介
- ・無料弁護士相談、司法書士相談の紹介 等

こころの健康センター 個別支援対応別数の推移

- ・R6年度は電話、面接の実人数の減少に伴い、延べ件数も減少した。対象者への面接は平均3.1回、電話は平均4.1回となっている。
- ・タイムリーかつ丁寧な相談対応が求められるため、対応力の向上に努める必要がある。



- ・相談総数は、R5年度とR6年度はほぼ同数となっている。相談種別もR5年度とR6年度はほぼ同数となっており、アルコールに関する相談が9割で、次いで薬物に関する相談となっている。
- ・相談時に適切に対応できるよう、引き続き研修等により対応力の向上に努める。



地域医療連携の推進 (SBIRT:エスバート)

- ・ ネットワーク会議は、R7年度に3回実施予定で、すべてオンライン開催。
- ・ R6年度に、ネットワークコアメンバーを中心にSBI (S:飲酒スクリーニング、BI:短時間介入)に焦点を当てた動画を作成。作成した動画は、岡山市医師会ホームページで紹介された。また二次元コードが掲載されたカードを作成し、R7.8.3のSBIRTS 普及促進セミナーin 岡山、R7.10.11の岡山県アルコール健康障害サポート医養成研修等で配布した。

医師によるSBI



- ・ 初診時に血液検査、腹部超音波検査を実施後、2回目診察で検査結果をフィードバック
- ・ 続いてAUDITでスクリーニングを実施し、その場で結果をフィードバック
- ・ BIにUltra-BIパンフレットを活用し、診察時間の短縮を目指す

看護師によるBI



- ・ 看護師がUltra-BIパンフレットを活用しBIを実施
- ・ 短時間ではあるが、本人の希望を丁寧に聴き、それを基に本人と今後の目標を立てる
- ・ 飲酒記録のためのツールとして飲酒日記を提供する

SBIRT動画カード




簡易的な介入方法 **SBIRT** 

Youtubeで「SBIRT動画」と検索

- S** Screening スクリーニング
AUDITやCAGEでハイリスクな人を同定。
- BI** Brief Intervention ブリーフ・インターベンション
短時間での介入を行う
- RT** Referral to Treatment 専門医療への紹介
適切な紹介を行う

岡山アルコール依存症早期支援ネットワーク作成

動画で使用しているパンフレット等

- Ultra-BI**
(お酒との上手な付き合い方) 
- AUDIT**
(アルコール使用障害特定テスト) 
- 美味しいお酒飲めてますか?**
(専門医療機関紹介パンフレット) 

- ・事例検討会は、R5年度以降、総合病院等を会場とする持ち回り開催を再開している。
- ・一般医療機関アルコール専門研修は、R3年度はオンラインで、R4年度とR5年度はハイブリッドで開催。顔の見える形でのネットワーク構築を図るため、R6年度以降は会場開催とし、ディスカッションや参加者の交流が図れるなど成果があった。一方で、オンラインを中心に増加傾向にあった内科等かかりつけ医の参加が減少した。申し込み後の欠席者が一定数いるため、オンデマンド配信等も検討していく。

【事例に学ぶ事例でつながるアルコール専門研修（事例検討会）：岡山県精神科医療センターにて現地開催】

日程：R7年9月19日(水)

検討事例：「『命・生きる』を支える支援～アルコール依存症と健忘症状を抱えるケースから考える地域医療連携のあり方～」

事例提供者：岡山県精神科センター 精神保健福祉士 江村 直樹 氏

参加者数：27人

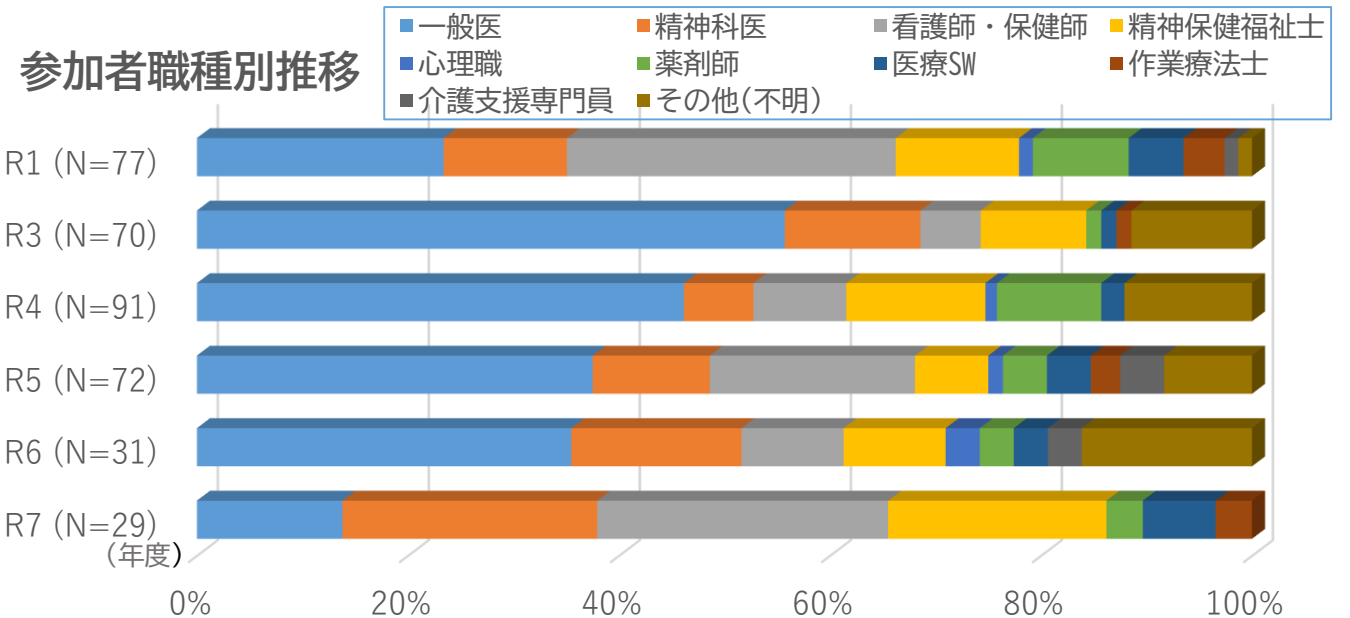
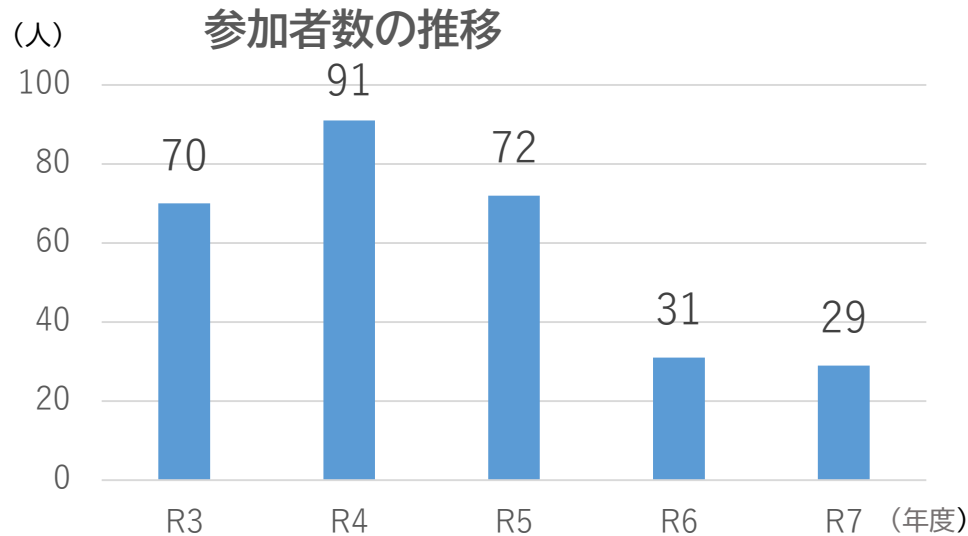
【一般医療機関アルコール専門研修（講演会）】

日程：R7年10月1日(水)

講演：「明日から始める！がまんのいらぬ減酒治療」

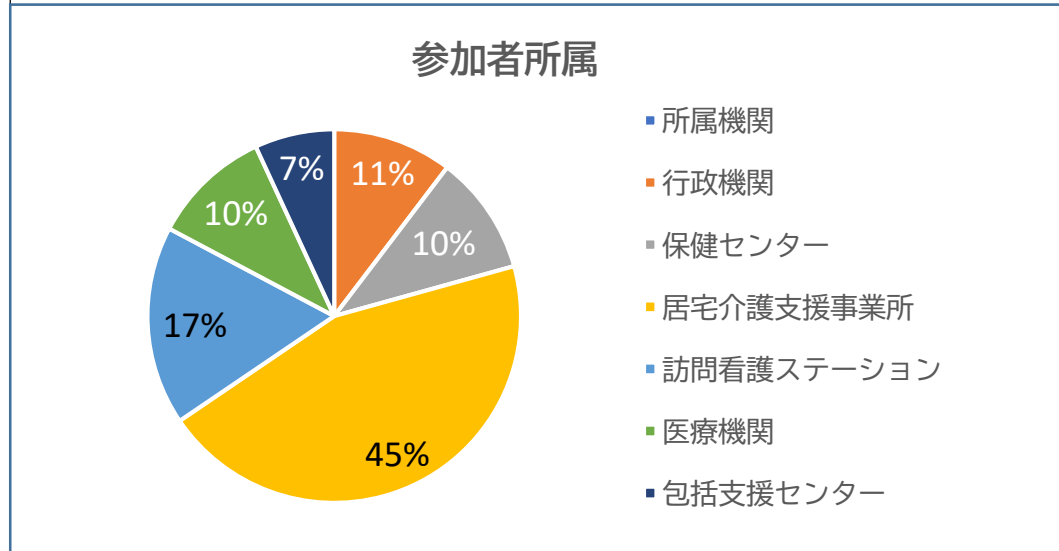
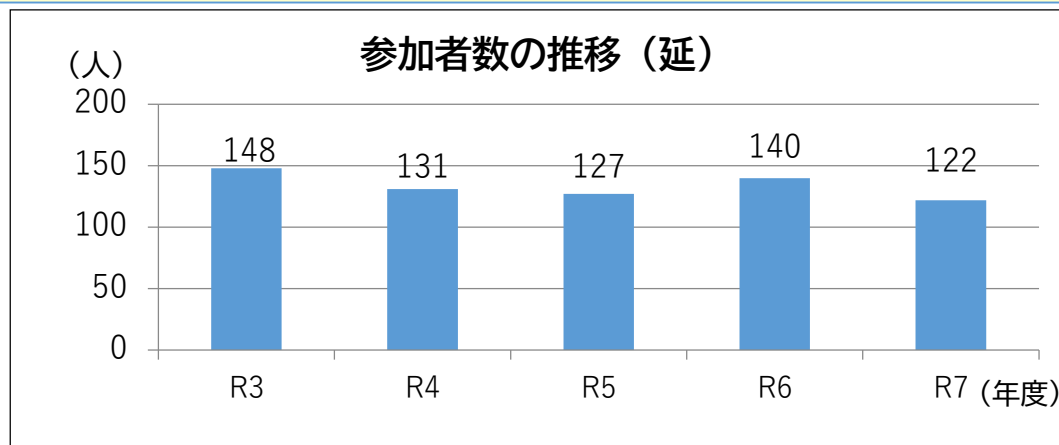
講師：佐賀県医療センター好生館 精神科 医長 角南 隆史 先生

参加者数：29人



- ・ 参加者数（延）は、増減を繰り返しているが大きな変化はなし。参加者所属は、R5年度から専門医療機関にも案内し、医療機関関連の参加者は一定数を占めている。昨年度までと同様に、高齢者福祉関連、行政機関等の関係者も多い。
- ・ 今年度も毎回40人以上の参加申し込みがあり関心の高さは伺えるが、当日のキャンセル者も多かった。
- ・ 参加動機として、具体的な相談援助技術を獲得したいとする者が多く、第3回・第4回に実技を取り入れ、内容の充実をはかった。アンケート結果からも具体的な支援に向けて参考になったという意見が多数ある。

日時・場所	内容・講師	参加者数
第1回 R7年7月23日 ピュアリティまきび	講演：アルコール対策の動向と一次予防 講師：大阪精神医療センター 精神科医 入来 晃久 先生	29人
第2回 R7年9月29日 ピュアリティまきび	講演：アルコール依存症の理解と支援 講師：林道倫精神科神経科病院 精神科医 北山 幸雄 先生 体験発表：岡山県断酒新生会 当事者	40人
第3回 R7年10月16日 ピュアリティまきび	講演：アルコール依存症・乱用への援助 動機付け面接法「飲めない」けど 「やめられない」迷っている人たち を援助するには 講師：市ヶ谷みぎわ心のクリニック 精神科医 後藤 恵 先生	26人
第4回 R7年11月13日 ピュアリティまきび	講演：依存症の家族支援CRAFT 講師：藍里病院 精神科医 吉田 精次 先生 体験発表：岡山県断酒新生会 家族会 家族	27人



- ・ 講演の中で参加者のワークを設けたことで、講演の内容の理解がより深まった。
- ・ 当事者や家族の実体験に基づいた話を聞くことで、より理解が深まるとの感想から、体験発表を盛り込んだ内容としている。
- ・ アンケート結果では、参加者の7割以上が薬物やギャンブル依存症への支援経験がなく、基礎知識や相談支援技術の獲得を期待し参加していた。今後も、参加者のニーズに沿った研修企画を目指していく。

【薬物依存基礎研修】

日程：R7年10月10日（金）

参加者数：23人 会場：ピュアリティまきび

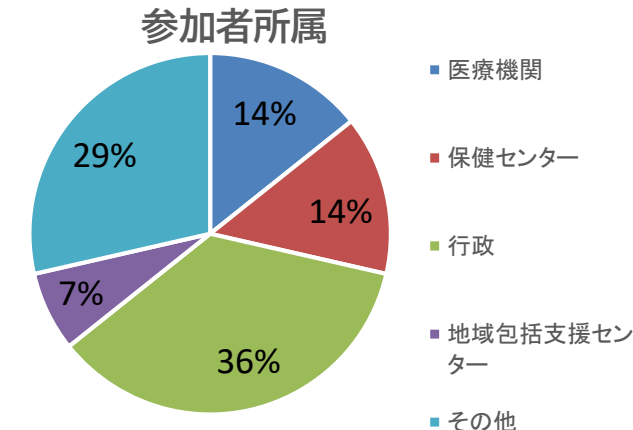
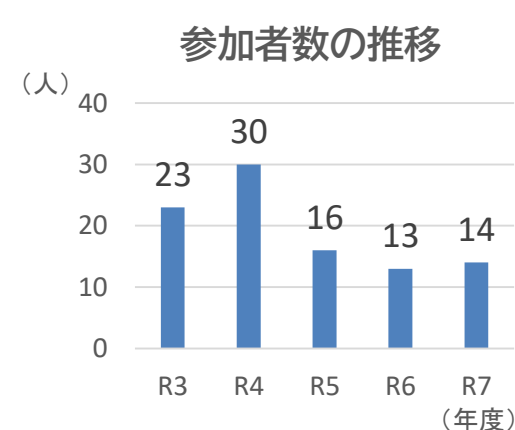
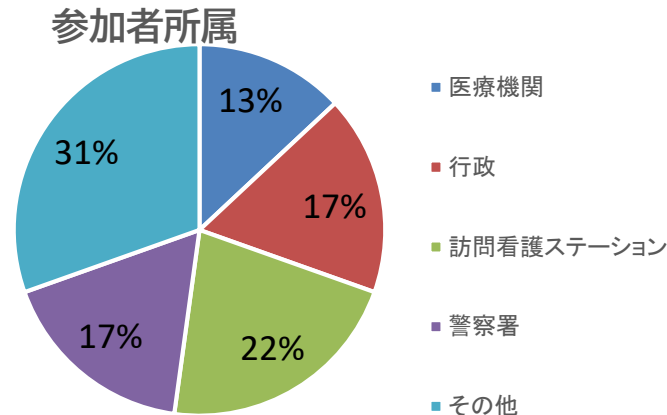
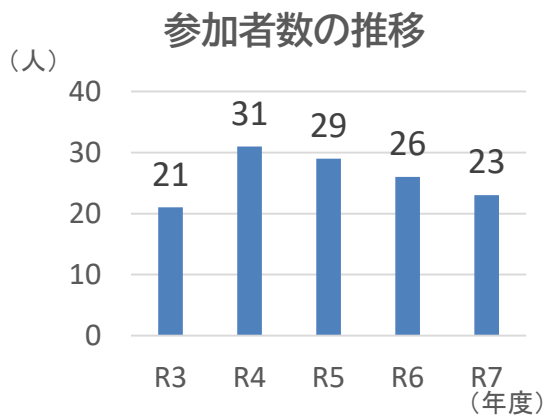
内容・講師
講演：「薬物依存症を取り巻く現状と基礎知識」 講師：岡山県精神科医療センター 精神科医 橋本 望 先生
ダルクの紹介と体験発表 体験発表「薬物依存症回復者の立場から」 講師：特定非営利活動法人岡山DARC 当事者
岡山家族会ぴあの紹介と体験発表 体験発表「薬物依存症家族の立場から」 講師：岡山家族会ぴあ 家族

【ギャンブル依存基礎研修】

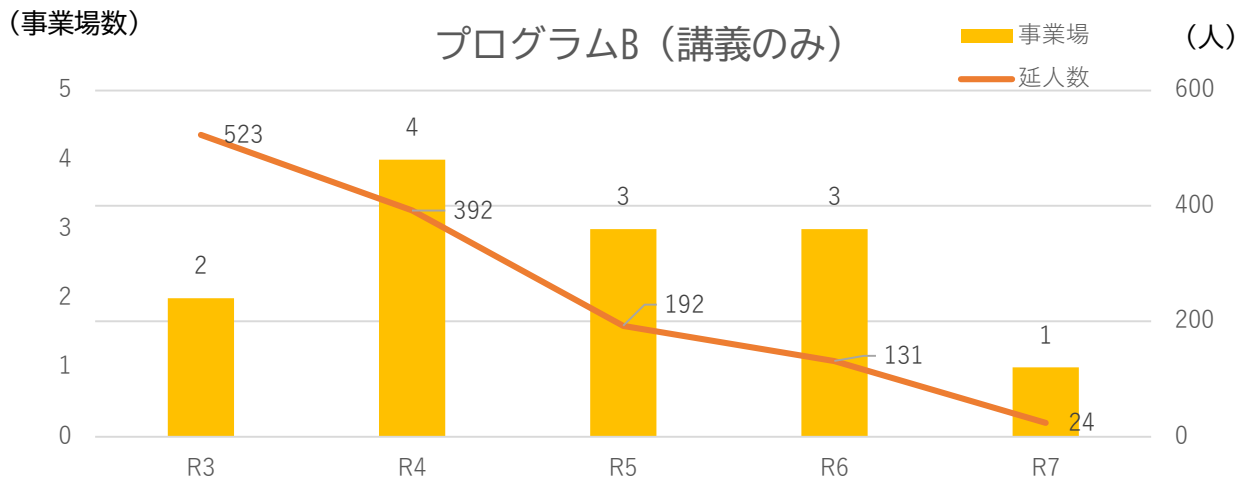
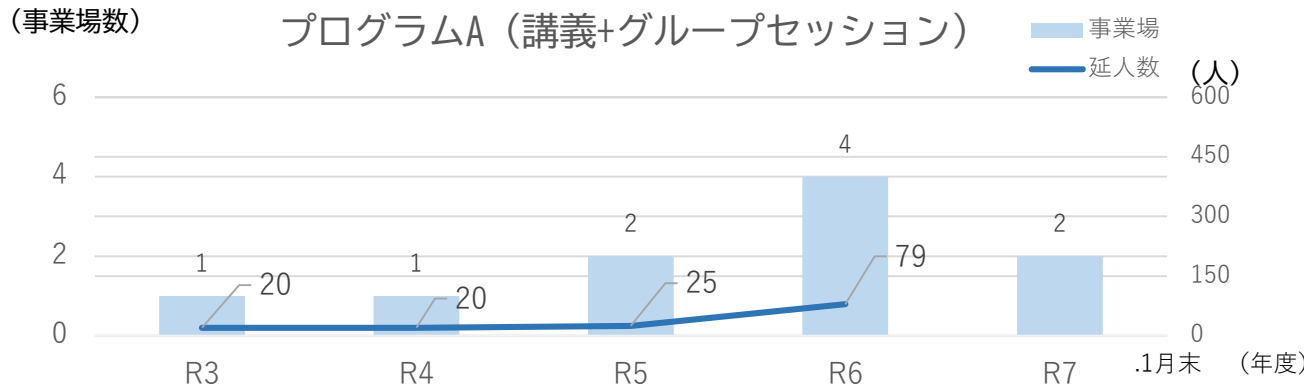
日程：R7年11月17日（月）

参加者数：14人 会場：ピュアリティまきび

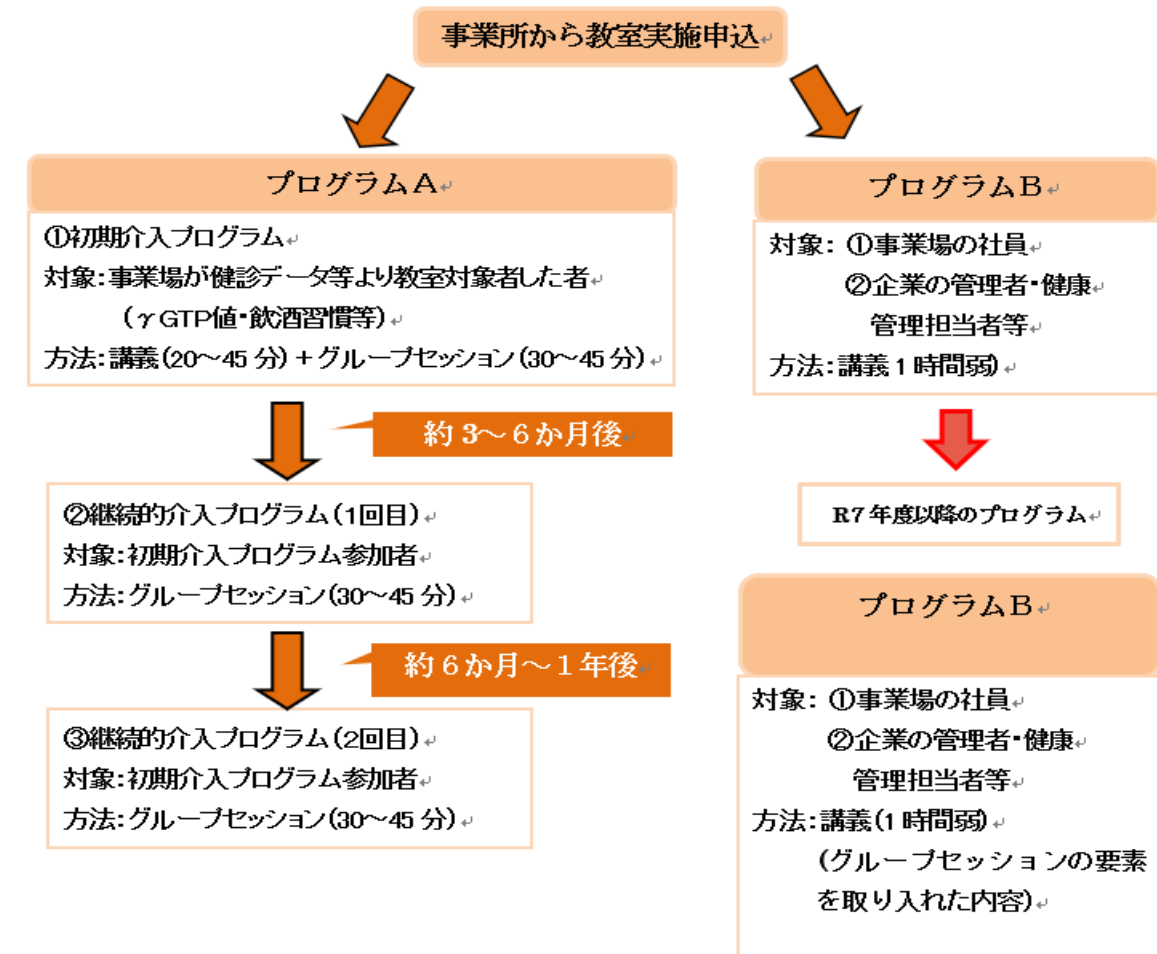
内容・講師
講演：「ギャンブル依存症を取り巻く現状と基礎知識」 講師：岡山県精神科医療センター 作業療法士 佐藤 嘉孝 先生
GAの紹介と体験発表 体験発表「ギャンブル依存症回復者の立場から」 講師：GA岡山 当事者



・R2年度以降、新型コロナウイルス感染拡大に伴い実施事業場、プログラムA（講義+グループセッション）の開催は減少したが、R3年度からプログラムB（講義のみ）をオンライン形式の対応にしたことから、プログラムB（オンライン形式）の開催が増えたことを受けて、プログラムAの行動変容に向けた要素をプログラムBに組み込む必要があると考え、R6年度～7年度にかけてプログラムの改訂に着手。プログラム検討会を開催する中で、ワーキングを立ち上げ内容を再度見直し、プログラムA・B・グループセッションの改訂を行った。現在、新プログラムを実施事業場で行い、実践に即した修正に取り組んでおり、今年度完成予定。



【プログラムの内容と種類】



職域依存症対策推進事業「おいしくお酒を飲むための教室」プログラム改定状況 15

■主な改定内容

①講義内容は4部構成を基に修正を行う。

第1部「お酒の歴史」については、お酒の文化、日本人はお酒に弱い人が多い等を含める。

第2部「アルコールの影響」では、肝臓の本来の働きを阻み、肝臓に負担を生じさせている事についての理解を促す。

第3部「アルコール依存症」では、依存症について疫学から、病気の原因、症状等の流れを組み込むようにした。

第4部「おいしくお酒をのむために」では、「健康的配慮した飲酒ガイドライン情報」を基に飲酒量と飲み方について修正した。

- ・厚生労働省より公表された「飲酒ガイドライン」を盛り込む。
- ・グループセッションでは、自己評価にバランスシートを加え、ディスカッションの中で振り返るようにした。
- ・プログラムBでは、講義の終盤に行動変容を促す内容を取り入れた。

■改定作業状況

実施日	会議名	主な内容	メンバー
R6.10.31	第1回検討会	・プログラム改定目的や進め方の共有 ・構成とスライドに関する意見聴取 ・改定に向けた方向性の共有 等 ※別途ワーキングにて改定案を作成し、改定案を試行し、検討会を開催する方向となった。	医療機関、産業保健、企業関係者
R6.12.12	第1回検討会ワーキング	(講義関係) 講義内容(4部構成)の構成バランス検討 飲酒ガイドライン情報や依存症関係のスライド等の見直し (グループセッション関係)・飲酒行動改善の動機づけ媒体(バランスシート)活用	医療関係者
R7.1.23	第2回検討会ワーキング	第1回検討会を踏まえ、スライド内容を検討	医療関係者
R7.6.12	第3回検討会ワーキング	第2回検討会をふまえ、スライド内容を検討	医療関係者
R7.7.31	第4回検討会ワーキング	第3回検討会をふまえ、スライド内容を検討	医療関係者
R7.9.11	追加ワーキング	グループセッションスライド内容を検討	医療関係者
R8.3.〇	第2回検討会	スライド改訂版の報告と今後の活用に向けた共有を行う予定	医療機関、産業保健、企業関係者

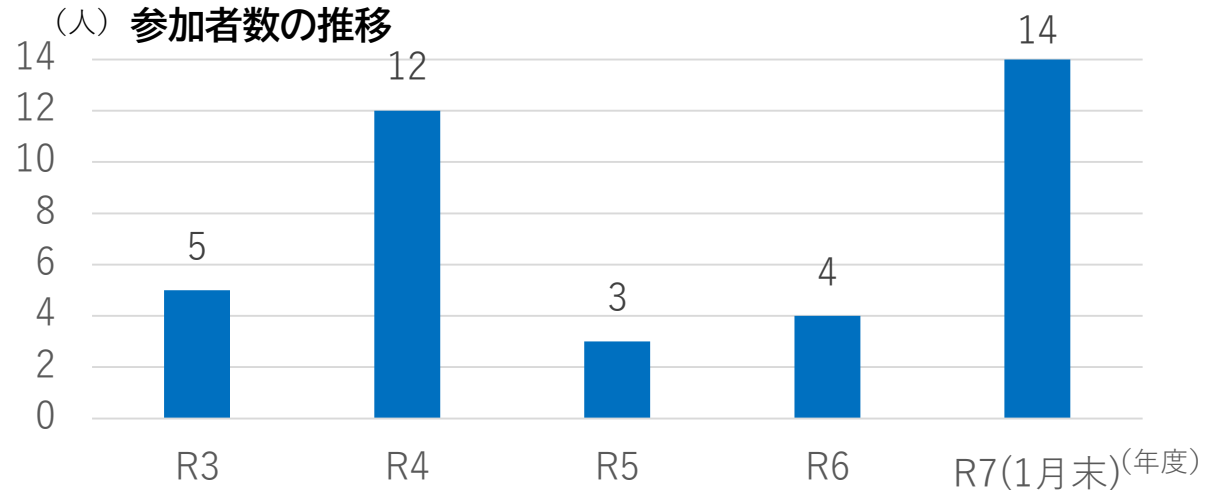
- ・ R7年度の参加者数は14人に急増した。集団だけではなく、状況に合わせて個別でも実施している。
- ・ 一部集団プログラムの日程が合わない者や欠席者には、別時間で個別対応を行いながら、プログラムへの参加継続を図っている。
- ・ プログラム終了後は、参加者が孤立しないように、継続したフォローアップを行っている。
- ・ 第5回にはGA岡山の当事者から体験発表やGAの紹介をしてもらっている。
- ・ 集団プログラムだけではなく、参加者の状況に合わせて個別でのプログラム実施やプログラムを応用した面談を実施していく。

	1クール	2クール	時 間	内 容
第1回	5月27日 (火)	10月28日 (火)	13:30~15:30	あなたのギャンブルについて整理してみましょう
第2回	6月24日 (火)	11月25日 (火)		引き金から再開にいたる道筋について
第3回	7月22日 (火)	12月23日 (火)		再発を防ぐために
第4回	8月26日 (火)	1月27日 (火)		私のみちしるべ
第5回	9月30日 (火)	2月24日 (火)		回復への道のり

プログラム参加経路：ホームページ・岡山県精神科医療センターからの紹介

【参加者の声】

- ・ ギャンブルを含め、自分を見つめ直すことができた。
- ・ 家族ともギャンブルについて話し合う機会が増えた。

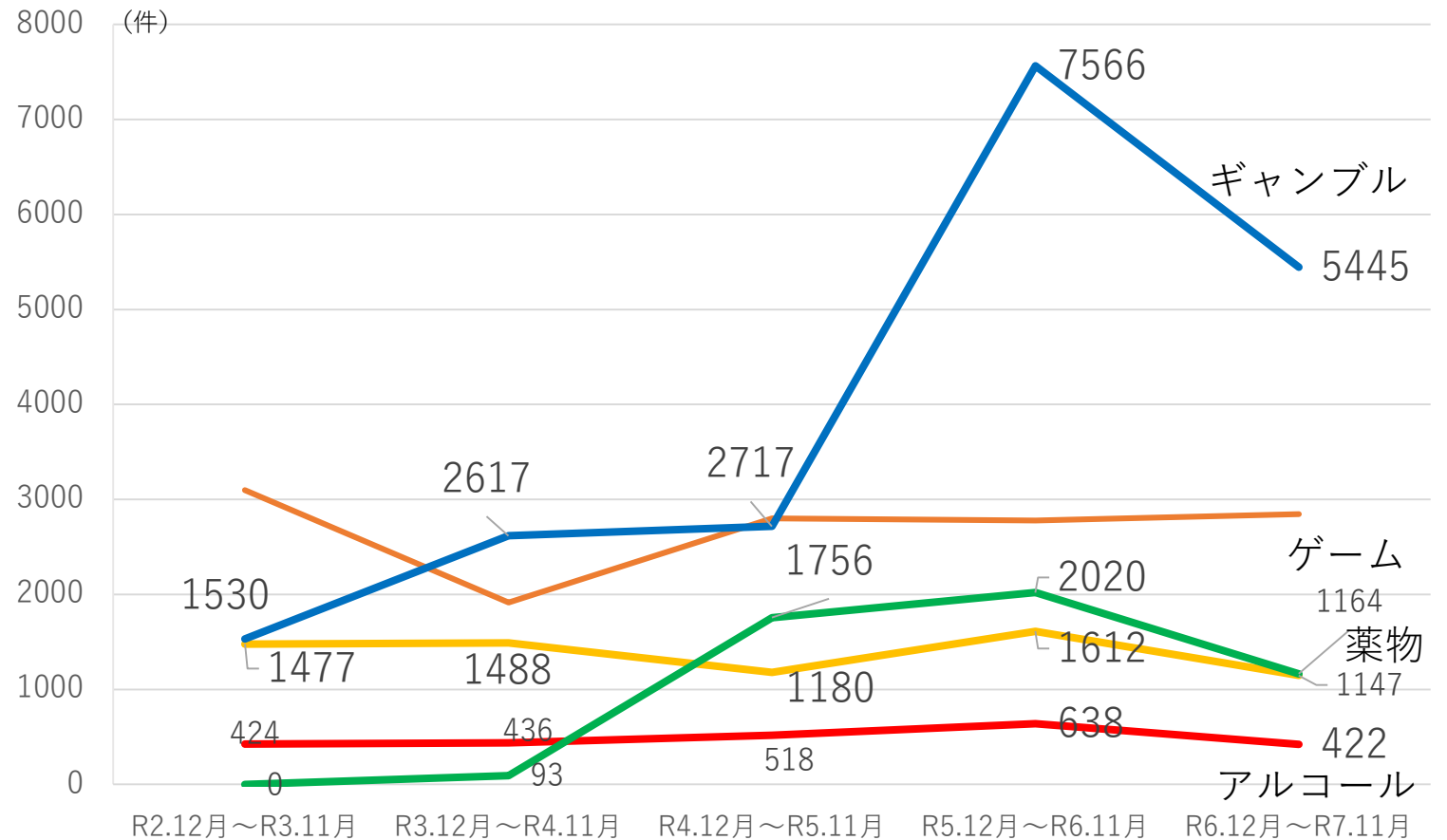


- ・アルコール関連問題啓発週間(11月10日~16日)に普及啓発ポスターを作成し、市内事業場(551か所)等に配布。
- ・直近(R6.12月~R7.11月)の種別アクセス件数が最も多いのはギャンブルで、次いでR4年度にホームページを開設したゲームとなっている。
- ・R5年度に薬物のホームページを改訂(本人と家族に向けたメッセージ等を加えた)したが、アクセス件数は増加していない。引き続き、各種のホームページを定期的に見直していく。

◇アルコール関連問題啓発ポスター



◇ホームページへのアクセス数の推移



- ・インターネットの検索エンジンで、「死にたい」「リストカット」等の自殺や希死念慮を思わせるワードを検索した場合に、「おか・ここ・ネット」のリスティング広告を表示させ、ホームページに誘導。
- ・市民のメンタルヘルスリテラシー向上や相談支援につなげる施策を進めるとともに、生きづらさや苦しさがアルコール、薬物等の物質乱用につながる可能性への啓発を重視する。(R5.2から開始)



岡山市自殺対策専用ホームページ
おか・ここ・ネット

○メンタルヘルスに関する情報を発信

- ・相談窓口の紹介
- ・精神的な病気についての情報
- ・ストレスチェック



● 依存症について

[2022年7月4日] ID:36880

「依存症」と聞くと、何を思い浮かべますか？

依存症には、アルコール、ギャンブル、薬物の他、最近ではゲームやスマホ依存など、様々なものがあります。

依存症というのは、自分自身で使い方をコントロールできなくなる病気のことです。

本人の性格や意志の弱さのせいではなく、親の育て方のせいでもありません。

依存症は誰でもなりうる病気です。相談や治療をすることで、回復につなげることができます。

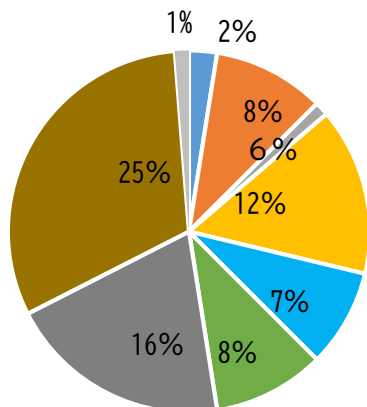
岡山市こころの健康センターでは、依存症相談支援センターを併設しています。

ネット・ゲーム依存関連の普及啓発

「こころの健康講演会（思春期専門研修会兼）」として、ネット・ゲーム依存に関する正しい知識の普及を図るため、講演会を実施した。

日時・場所	内容・講師	参加者数
R4.8.2 ピュアリティまきび	講演「子どもたちとゲーム・ネット・スマホ～デジタル機器とのつきあい方を考える～」 講師：愛知県医療療育総合センター 子どものこころ科 吉川 徹先生（児童精神科医）	41人
R5.7.31 ピュアリティまきび	講演：「子どもたちはゲームやインターネットの世界で何をしているんだろう？」 講師：医療法人仁誠会 大湫病院 児童精神科 関 正樹 先生（児童精神科医）	135人
R7.9.18 ピュアリティまきび	演題：「子どものインターネット・ゲーム依存の理解と対応」 講師：独立行政法人 国立病院機構 久里浜医療センター 名誉院長 樋口 進 医師	89人

参加者職種(R7年度)



- 医師
- 看護師
- 保健師
- ソーシャルワーカー
- 心理職
- 教諭（養護教諭含む）
- 市民
- その他
- 回答なし

令和7年度 こころの健康講演会 主催 岡山市こころの健康センター

子どものインターネット・ゲーム依存の理解と対応

参加費 無料

スマートフォン等の通信機器が急速に普及し、現代の子どもたちにとってインターネットを用いたゲームやSNSは非常に身近な存在となっています。それらに熱中している子どもたちを見て、大人は不安を感じてしまいがちです。大人からは見えない部分も多く、そのような子どもへの対応に悩まれているご家族も多いのではないのでしょうか。

本講演会では「インターネット依存とはどういうものなのか」「周囲の大人はそれをどのように予防し、対応していけば良いのか」等についてご講演いただけます。皆さまのご参加をお待ちしております。

開催日時

令和7年
9/18 木
13:30▶15:30(受付 13:00～)

開催場所

ピュアリティまきび 千鳥
〒700-0709 岡山県岡山市北区下石井 2-6-41
駐車場には限りがあります。公共交通機関をご利用してください。

対象

岡山市民の方、岡山市内の教育関係者及び精神医療保健福祉関係者等

申込専用 URL

<https://forms.gle/9vQnvrnMbCzfURN6A>

申込締め切り **令和7年9月4日(木)**

問い合わせ先 岡山市こころの健康センター
TEL:086-803-1273・FAX:086-803-1772 E-mail:kokoroct@city.okayama.lg.jp

講演

「子どものインターネット・ゲーム依存の理解と対応」

講師 樋口 進 医師
独立行政法人 国立病院機構 久里浜医療センター 名誉院長
慶應義塾大学医学部客員教授
藤田医科大学医学部客員教授

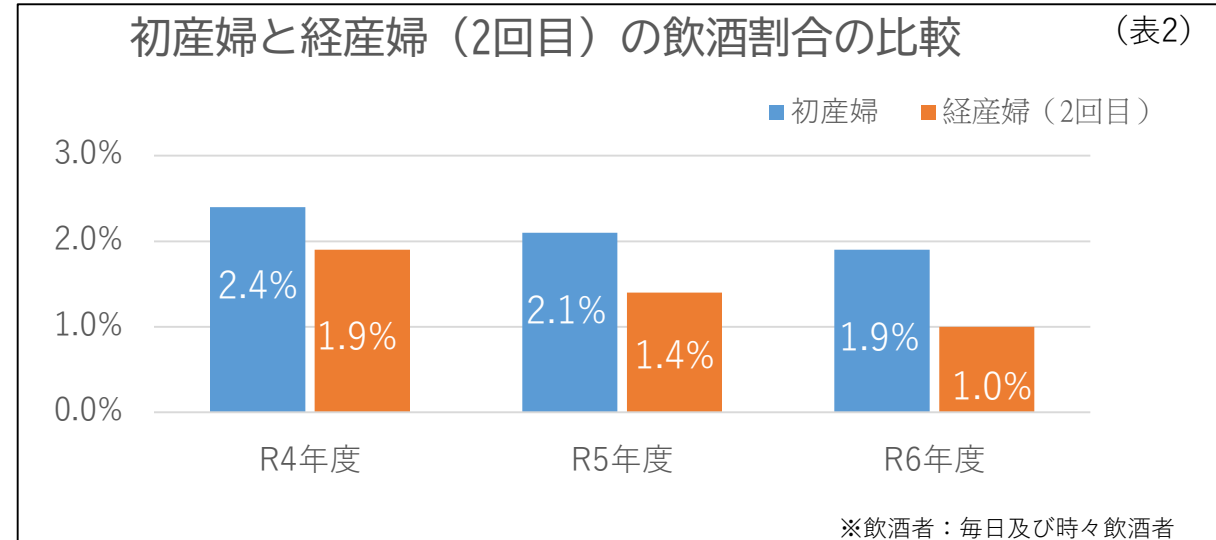
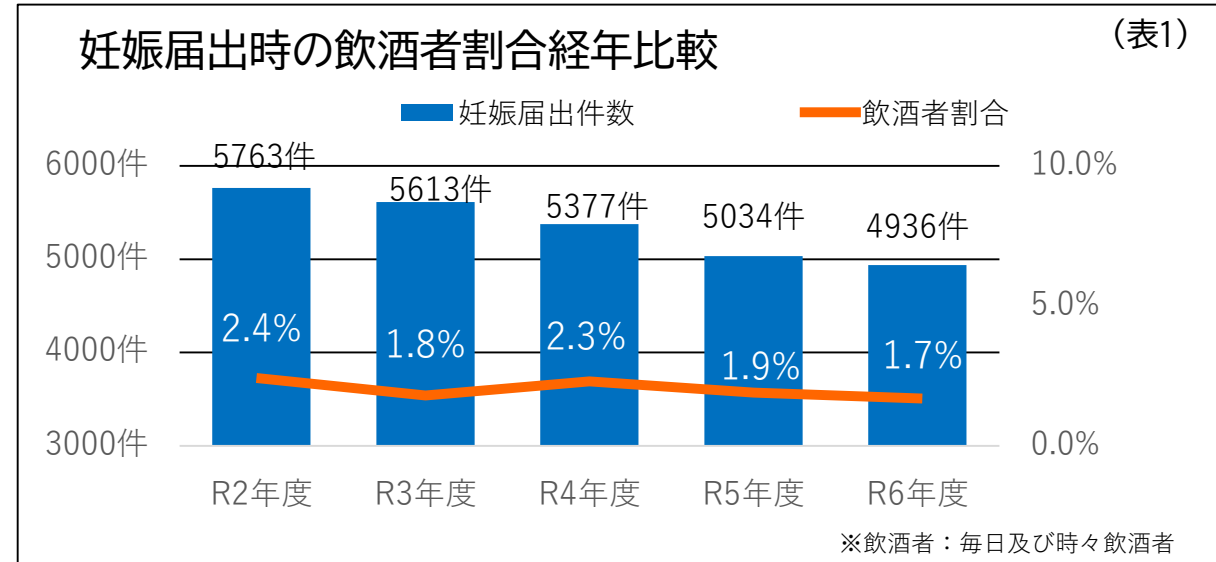
2011年7月にわが国で最初にネット依存専門診療を始めて現在に至る。ゲーム行動症の疾病化に関して、当初からWHOに全面的に協力してきており、現在はその診断ガイドラインやスクリーニングテスト作成を進めている。

定員
先着 **130人**

お申込はこちら

- ・地域の団体等とも協働し、幅広い世代に対する啓発活動を行った。
- ・妊娠初期に情報収集し、飲酒している妊婦に対しおかやま産前産後相談ステーション（現：こども家庭センター（産前産後相談ステーション））等での面接相談指導を、今後も継続して実施する。
- ・初産婦より経産婦（2回目）の飲酒者の割合が低くなっている。

主な事業		取組内容
アルコール健康障害パネル展		アルコール関連問題啓発週間に合わせ、R7年11月11日に岡山市役所本庁市民ホールにて、断酒会の協力を得て啓発パネルの展示、啓発パンフレット・グッズを配布。併せて保健福祉会館情報コーナーではパンフレットを設置し啓発活動を実施。
妊娠届出時の普及啓発と相談指導		各保健センターに常設のおかやま産前産後相談ステーション（現：こども家庭センター（産前産後相談ステーション））にて、助産師等が飲酒習慣のある妊婦に対し妊娠届出時に、啓発パンフレットを配布するとともに、アルコールが体に与える影響について面接相談指導を実施。（表1、2）
地域における普及啓発	健康市民おかやま21での活動	地域で開催されるイベントで、保健センターが健康市民おかやま21推進委員と協働して啓発活動を実施。小学生や高校生に対しても実施。
	各地区での健康教育活動	各保健センターにて、一般市民に対してアルコールに関する健康教育を実施。R6年度は7か所221人に開催。北保健センター管内の商業施設で断酒会と一緒に啓発活動を実施。
	情報メディア等の活用	保健所が、R7年10月に、市民向けラジオ（レディオMOMO）を通じて、アルコールの影響や相談先について情報提供を実施。
「こころ健康マップ」による情報提供		依存症関連自助グループについて「アルコール」「薬物」「ギャンブル」の分野別に各会の開催情報等を掲載。保健センターでは随時配布をしている。R6年度改訂時には381機関に配布した。

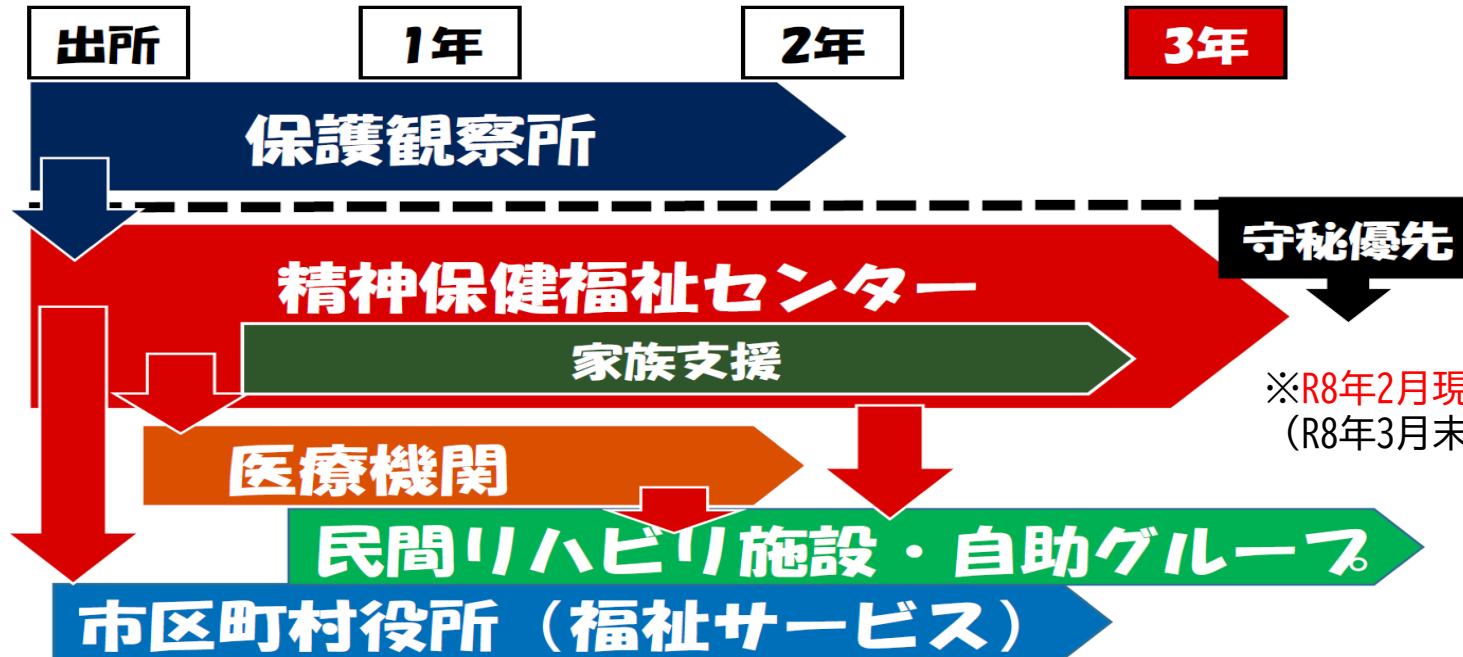


- VBP (Voice Bridges Project) 申込者は、R4年度、R5年度、R6年度に各1人ずつ、R7年度1月末現在は0人で、現継続支援者は2人。
- R4年度から保護観察所主催の引き受け人懇談会に参加し、当センターの薬物依存症者支援に関する情報提供を行っている。
- R4年度の「薬物依存からの回復のための岡山県地域支援連絡協議会」にて岡山刑務所から、釈放前受刑者への支援における機関連携相談があり、R5年度は岡山刑務所内で実施する集団プログラムに参加し、地域の相談先について情報提供した。
- 薬物使用者に、当センターが仕事や金銭面など生活全般の相談ができることの周知が図られていないため、情報提供の機会を拡大したい。

2017年3月始動! 地域側からの「おせっかい」 Voice Bridges Project

「刑の一部執行猶予制度」施行後の地域支援(熊倉, 高野, 松本, 2017)

保護観察対象となった薬物使用者に対して3年間追跡調査を行う中で、薬物使用の確認や生活の困りごとを聞き取り、切れ目ない支援を目指す。



※R8年2月現在、34か所の精神保健福祉センターがVBP参加
(R8年3月末には35か所が参加予定)

過去の審議会における主な意見（要旨）

高齢者・一般医療における“気づき”と支援

- ・他疾患治療や入院を契機に依存症が見つかるケースが多い
- ・一人暮らし・身寄りの少ない高齢者が増加

本人以外（家族等）からの相談の重要性

- ・家族相談が増加している
- ・家族自身のセルフケア、子どもへの支援が重要

初期相談・単回相談が果たす役割

- ・相談は短期間で終了することが多い
- ・単回でも行動変容は起こり得る
- ・初期対応が医療・自助グループにつながる場合がある